

中間評価集約

本校では、教育目標及び年度重点目標を設定し、より良い学校づくりを推進しています。年度重点目標の具現化に向けた日常の教育活動について、自ら点検をし、改善すべき点を明らかにするとともに、その改善策、更なる発展をめざしての向上策を作成し、教育実践をしています。年度途中の評価及び改善策・向上策は次のとおりになっています。より具体的な対策については、校内担当分掌を中心に鋭意検討しております。広く皆さんからご意見をいただき、本校の教育活動の充実と発展を図っていきたく思います。ご意見等ございましたら、Eメールでお願いいたします。

□ 教育目標

- (1) **自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。**
 - ① 自主的・自律的に学校生活に取り組む校風、態度を形成する。
 - ② 生徒個々の学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。
 - ③ 基本的生活習慣の確立を図り、倫理観や規範意識を高める。
- (2) **一人一人を大切にし合い、夢や希望を育み、個性を伸ばす。**
 - ① 基礎・基本を確実に習得し、創造性を高め、個性を伸ばす。
 - ② 夢や希望、能力・適性、進路に応じた目標をもち、自己実現を図る。
 - ③ 向上心をもって共に学び合い、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
- (3) **心豊かで、たくましく生き抜く人間となる。**
 - ① 幅広い学習体験や特別教育活動に取り組み、人間性と社会性を育む。
 - ② 人間尊重の精神、信頼と友情に基づく連帯感を育む。
 - ③ 地域社会の要望に応え、社会に貢献できる人間となる。

□ 中期重点目標

梓川高校及び梓川高校生の存在意義の確立

- (1) 「地域から信頼される学校」を目指して、「地域に開かれた学校づくり」を実践し、地域に根ざした梓川高校としての存在意義の確立を図る。
- (2) 梓川高校生の一人一人が将来への目標を掲げ、自主・自律的な意義ある高校生活を送り、社会の一員として自らの存在意義を確立していく。

□ 今年度の重点目標

- (1) **地域・生徒の要望に応えた、創意ある教育活動、活力ある学校づくりに努める。**
 - ① 高校再編の流れの中、梓川高校の存在意義を明確にするために、将来ビジョンの確立を図る。
 - ② 将来ビジョンを具現化するために、コース制のあり方の検討と並行し、現コースの更なる充実と発展に努める。
 - ③ 地域との連携を密にすることにより、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開に努める。
- (2) **基礎・基本の確実な定着と個性の伸長を図り、生徒一人一人の進路目標の実現に努める。**
 - ① 一時間一時間の授業の大切さを理解させる。
 - ② 習熟度授業・少人数制授業を実施するとともに、補習授業及び個別指導の充実を図る。
 - ③ 生徒一人一人の進路目標を早期に確立させ、その実現に向けての学習意欲の喚起に努める。
- (3) **基本的な生活習慣の確立を図ると同時に、自主的・主体的に行動する生徒を育てる。**
 - ① 全職員の協力のもとに「身だしなみを整える、上下履きの区別をする、ゴミを散らかさない等」の基本的な生活習慣の確立を図る。
 - ② 様々な行事を通じて、集団生活のマナーやルールの大切さを理解し、自ら実践できるように生徒の社会性の高揚に努める。
 - ③ 生徒会活動・クラブ活動・学年、学級活動等を通じて、自主・自律的な意識の育成とその実践のための指導助言を行う。

□ 中間評価

・ 評価項目の数字は、重点目標の項目番号になります。

領域	対象	評価項目	評価の観点	現段階の成果と課題	改善策・向上策	
教育 活動	教育 課程	1 コース制の充実	コース設置目標を踏まえた上で、コースの内容・カリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	中間評価をお願いした時期から、現在までにビジョン委員会からの提言をうけた教育課程委員会によって、検討が進められ、コース制の見直しも含めたカリキュラムの改善が進んでいる。	中期的な視点での検討は進んだが、長期的な視点からの検討が必要かと考えられる。	
			各コース履修者の70%が満足をしている（した）か。	各コースでのアンケートが実施されていない現在での評価は難しい。アンケートの実施が急がれる。	より充実したアンケートの実施方法の検討を行った上で、アンケートの実施を実施する。また、アンケート結果の検討と結果の共有化を図る。	
	学習 指導	2	学習目標の確立	シラバスに基づき、生徒に学習目標・内容を公表・説明し理解させることで、生徒の学習意欲の喚起につながったか。	シラバスの公表及び説明については定着してきていると考えられる。しかしそれが、生徒の学習意欲の喚起につながっているかについては、その確認はとれていない。	シラバスの公表・説明が、生徒の学習意欲の喚起にどのように結びついているか検証が必要。検証方法を検討する必要がある。
			授業改善	授業アンケートを実施し、基礎・基本の定着に向けた授業改善に取り組んだか。	授業アンケートについては、シラバスの説明ほど、定着していないように思われる。今年度からアンケートのやり方が変更され、職員の意識によって取り組みの差が感じられる。	職員の意識をより高めることと同時に、アンケート結果の検討と結果の共有化を図るための方法の検討。
		2	個に応じた指導	生徒の要望等を把握し、補習授業及び個別指導の充実を図っているか。	進路指導の二つ目の評価項目との違いが明確ではなく、評価がしにくい。Bの評価が高いが、まだ不足している部分が見受けられる。また、どこが主導で行うかが明確でない。	職員間の補習に対する意識の統一を図るとともに、補習の具体的なあり方についての検討。
	生活 指導	3	「総合的な学習」の充実	生徒が主体的に取り組める学習目標・年間計画を作成し、指導体制を確立させているか。また、新たな視点を取り込む努力をしているか。	この評価結果に加えて、これまでのビジョン委員会からの提言をうけての検討からも見えてくるように、評価が分かれている。現在、ビジョン委員会の提言をうけ各部署での検討が進められている。	ビジョン委員会からの提言をうけて、各部署で更に検討を進め、なるべく早い時期に来年度以降の「総合学習」についてのあり方を決定する。
			3	基本的生活習慣の確立	全職員が一致し、基本的生活習慣の確立に向けた具体的な実践項目（身だしなみ・上下履き・ゴミ散らかし等への指導）を作成、実行しているか。	昨年と比較するとかなり評価が高くなっている。職員の意識、生徒の意識も向上が見られる。しかし、現状はまだ満足できる状態ではなく、更に全職員による継続的な指導が必要である。
		3	生徒相談体制の充実	生徒相談室係・スクールカウンセラー等と、職員間の連携を密にし、問題の解決に取り組んでいるか。	今年度も、相談室関係は充実していると考えられる。しかし、情報の共有化や、担任や係の負担減をどのように進めていくか、プライバシーの問題もあり、今後の課題となっている。	情報の共有化をはじめとして、対職員への取り組みの充実を図るための検討。
	進路 指導	2	進路目標の確立と自己実現	生徒一人一人の進路目標の早期確立に向けた年間計画を作成し、その実現のための指導をしているか。	ビジョン委員会の提言にもあったように、進路指導の見直しは大きな課題である。今回の評価からも三年間を見通した年間計画の策定が望まれる。	各学年、教科、学習係等との連絡を密にしながら、早急に進路指導計画の見直しを図る。
				高い目標を持ち、その実現のための向上心のある生徒の学習意欲に応える取組を行っているか。	個々の能力に応じた指導が行われているケースも見られるが、全体的には不足している。全校として組織的な取り組みにはなっていない。本校の長年の課題となっている。また、向上心を持つ生徒の育成も不足している。	進路指導部主導で生徒に向上心を持たせるような取り組みの検討と、補習授業の具体的なあり方の検討。
生徒 会	3	自主性を育てる指導	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・主権者意識を育てられているか。	リーダー的資質を持った生徒が少ない中、係の先生方の努力に応えられる形の生徒会活動にはまだ足りていない。 クラブ活動を充実させる環境については、充分とは言えない。	生徒会・クラブ活動ともに、生徒の自主性を尊重しつつ、職員がどう関わっていくかを、職員全体の問題として検討していく。	

学 校 運 営	組 織 運 営	1・2・3	学校自己評価の実施	学校自己評価を実施し、教育活動の向上及び教育課程の改善を図っているか。	このような形の自己評価も四年目を迎え、実施方法についての見直しが必要と思われる。評価することは定着しつつあるが、その評価が今年度後半あるいは次年度の教育活動にうまく結びついているかは検討の必要がある。	評価方法の見直しは年度当初からの課題であり、早急な検討が必要である。また自己評価のあり方そのものについても検討の必要がある。
		1・2	情報集約	地域等への情報提供のための、諸活動の資料提供を積極的に行っているか。	評価項目として問題があり、正しい評価になっていないのではないかと。校内での担当係等への情報の提供がしっかり行われているかを評価することは困難。	評価項目からの削除の検討。
	地 域 と の 連 携	1・2・3	情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をしているか。	HP・Eメール通信等の情報提供はできているが、公開授業等の取り組みは地域への広報活動等も含めまだ不十分。	担当係にこれ以上の負担にならない方法での、よりいっそうの充実方法を考える。公開授業のあり方について検討する。
		1・2	意見聴取と反映	地域の声を聴取し、教育活動に反映しているか。	地域からの声を共有する機会があまりなく、関係部署の職員のみへの対応になってしまっている。	教育懇談会・学校評議員連絡会等への全職員の参加を含め、地域からの意見を共有化できる場の設定の検討。
		1・2	教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	昨年来の懸案事項である、「学校人材バンク」等の活用についての検討は本年度も進んでおらず、地域の教育力の活用は一部に限られている。	「学校人材バンク」の有効活用策の検討及び、それ以外の対策の検討。
	校 内 研 修	1・2	授業・学習指導法の改善	研修会及び公開授業は、授業・学習指導法の改善を図るための研修となったか。	授業・学習指導法のための研修は、今年度もまだ、実施できていない。公開授業は実施しているが、多くの先生方が参加できていない。	授業・学習指導のための研修会の計画の立案と実施を検討。公開授業週間等のあり方の検討。
		1・3	生徒理解	生徒の希望や願い、夢を受け止め、対応できる生活指導・相談体制を確立するための研修となったか。	この評価表の回収中に研修会を実施したため、未記入も多かったが、実施後提出された評価は概ね高いもので有意義な研修ができたと言える。	来年度以降も、本校の生徒の状況にあった研修会を実施する。
	施 設 設 備	1・2・3	学習環境の整備	生徒が生き生きと活動できる学習環境を整備しているか。	施設面においては、様々な取り組みが行われ、充実が図られているが、まだまだ不十分な面が多い。また、清掃美化の面においては、生徒の意識向上が図られつつあるが、なおいっそうの取り組みが必要である。	日々の清掃の一層の強化と生徒会整美委員会との連携を図る。 施設設備に関しては、予算等を考慮しながら、計画性をもって整備に努める。